

3-6

家族に機密情報を漏らしたら

事例 6

とある企業に勤めるAさんが、夜に家庭で団らんをしているときのことです。会社で起きた出来事を奥さんと話しています。

Aさん「今日、取引先のX社の担当さんと話したんだが、あそこの会社も経営が苦しいらしいな。」

奥さん「でも、X社といえば大手じゃない。」

Aさん「近々、大きな人員整理が行われるらしいよ。」

奥さん「もしそうだとしたら、お勤めしている人は大変ね…。」

この会話を聞いていたAさんの娘さんは、友達B子の親がX社に勤めていることを思い出しました。彼女はB子のことが少し心配になり、LINEのグループトークで連絡を試みました。

娘「今、パパたちの話を聞いてただけど、X社は調子悪いの？ 人員整理があるかも、だって」

B子「ええ？ 親がリストラされたら、私どうすんのよ!」

このやり取りを見ていたLINEグループ内の誰かが、他のSNSにX社について投稿しました。この投稿がたちまち拡散し、「X社の業績が低下し、経営がひっ迫している」との印象を社会に与え、業績の立て直しを目指す同社には大きな損害となりました。



👉 家族や近い人からの情報漏洩

会社の業務上知った情報は、機密情報であり、家族や恋人など気が許せる近い人に対して漏らすことも例外ではありません。それがわかっているにもかかわらず、多くの人は、「家族ならいいだろう」という気持ちがあります。実際、機密情報を漏らしたとしても、これまでは大きな問題に発展することがほとんどなかったはずですが、以前なら漏洩したとしても家庭内に止まっていた情報が、SNSが普及したことによって、外部に拡散する危険が大きく高まっています。

👉 家族や近い人のSNS利用状況を確認

普段から気を許して会話をする相手が、SNSをどのように利用しているかを知っておきましょう。

どんなサービスを、どのような頻度で、何の目的で利用しているかを事前に知っておき、それを考慮した上で会話内容を検討しましょう。

また、家族などの近い人にも、安全にSNSを利用できるように教育することも、SNS利用者に求められているマナーです。ぜひ、自分だけでなく、周囲の人も、SNSのリスクに関する正しい知識を身につけられるようにしてあげてください。

👉 企業はSNS上の投稿には敏感

企業の中には自社の評判や炎上の火種を発見することを目的とし、SNSでの投稿を監視しています。会社名や商品名、サービス名など、監視の対象となる単語を選んでおけば、それらのキーワードがSNS上で投稿されると、通知されたり、データ統計を取ったりすることができます。

発見された悪質な投稿は、内容や投稿者に応じて、適当な対処方法が企業において検討され、場合によっては訴訟にも発展しかねません。

対策

📌 社外秘情報は家族でも伝えない

業務上知りえた情報は社外秘であり、たとえ家族であっても伝えてはなりません。どうしても伝える必要がある場合は、社外秘であることを伝え、他の人に漏らさないように確認を取っておきましょう。

📌 家族のリテラシーにも注意を払う

本人がいくら情報の漏洩に気を付けていても、その周囲にリテラシー（SNS、セキュリティなど）の低い人がいて、投稿を行ってしまうと、そこから情報は漏れていきます。

家族や恋人、友人など、近い人がどのようにSNSを利用しているかを確認し、常に正しい知識を持って利用できるように、必要に応じてアドバイスを与えてあげましょう。

POINT 利用する際の心構え

- 当事者でなくても、周囲の人が投稿することで、トラブルにつながるケースが多数あります
- 家庭内でもSNS利用に際しての心構えやルールなどを話題として取り上げ、家族全員のリテラシーを向上させるよう努めましょう
- SNS上での投稿を監視することで、会社名や商品名、サービス名に関係する反響や評判をすぐさまチェックすることができます